

「特別の教科 道徳」の評価は、どのようなことに留意して進めればよいのですか。

★ ポイント

道徳科の評価は、児童がいかに成長したかを積極的に受け止めて、認め、励ます個人内評価として記述式で行います。

1 基本的な考え方

評価は、児童の側から見れば、自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくものであり、教師の側から見れば、教師が目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるものです。

そこで、道徳科の特質を踏まえると、評価に当たっては、次の6点が求められます。

- ・ 数値による評価ではなく、記述式とすること
- ・ 個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりを踏まえた評価とすること
- ・ 他の児童との比較による評価ではなく、児童がいかに成長したかを積極的に受け止めて、認め、励ます個人内評価として行うこと

*

* 個人内評価… 児童のよい点を褒めたり、更なる改善が望まれる点を指摘するなど、児童の発達の段階に応じ励ましていく評価

- ・ 学習活動において、児童がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること
- ・ 道徳科の学習活動における児童の具体的な取組状況を一定のまとまりの中で見取ること
- ・ 道徳科の評価は、調査書には記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することがないようにすること

2 道徳科における評価

- 評価に当たっては、道徳科の学習活動に着目し、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する必要があります。
- 評価に当たっては、一人一人の児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子について、発言や会話、作文・感想文やノートなどを通じて、主に次の2点に着目して見取り、特に顕著と認められる具体的な状況を記述します。

- ・ 一面的な見方から多面的な見方へと発展しているか。
(例) 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている 等
- ・ 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。
(例) 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている 等